

3つのポリシー(英語国際学部英語国際学科)

建学の理念	「公正な世界観にもとづき時代と社会の要請に応えていく実学」の教授研究を通して、「国際社会に貢献できる豊かな教養を備えた人材」を育成します。
大学の教育理念・方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語を「コミュニケーション・ツール」として位置づけ、より実践的な言語教育を行います。 ・ 他国の言語・文化を修得・理解するレベルにとどまらず、日本語・日本文化の礎を踏まえ、自らの考えを自由に発信できるより高度で創造的なレベルでの言語運用能力の修得をめざします。 ・ 言語教育にとどまらず、平和な国際社会の構築に貢献する人材として必要な「国際学」「外国学」に関する国際教育に力を注ぎ、豊かな人間性に裏付けられたコミュニケーション力を培うための教養教育を重視します。
学部(学科)の人材養成目的	<p>(英語国際学部英語国際学科)</p> <p>実用的な英語運用能力を基礎に国際的なコミュニケーション力を育成する。加えて、異なる文化、歴史を理解する力やグローバル・キャリア基礎力を養成するとともに、海外留学における学修等を通じて、グローバル社会を支え国際舞台で活躍できるミドル・マネジメント層につながる国際的な教養を備えた人材の育成を目的とします。</p>
学位授与の方針(DP)	<p>本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「学士(英語国際)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの考えを積極的に発信できる英語力の修得、ならびに英語に加え中国語を学修し、多様な人々と柔軟にコミュニケーションできるようになる。 2. 異文化にかかる知識の獲得、異なる価値観や考え方を受容し、対応できるようになる。 3. グローバル社会にかかる幅広い知識を身につけ、その動向を理解し分析できるようになる。 4. 主体性、行動力、論理的思考力、課題解決力など、グローバル社会で活躍する上で求められる能力を身につけ、発揮できるようになる。
教育課程の編成・実施の方針(CP)	<p>[教育課程の編成にかかる基本方針]</p> <p>本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目、全学共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実用的な英語や中国語能力を核とした「国際的コミュニケーション力」に加え、「異文化理解力」、「国際理解力」、「グローバル・キャリア基礎力」の3つの国際力の養成をめざします。 ・ 早期の1学期間の英語圏語学留学および中国語圏語学留学プログラムとの有機的連携により、異文化理解や国際的コミュニケーション力の向上をめざします。 ・ 専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、全学共通教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育内容について <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年次を英語力の集中育成の段階と位置づけ、専門必修科目「Advanced English Studies」プログラムでは、英語の4技能をバランスよく学び、コミュニケーション力の向上をめざします。 (2) 英語に加え原則中国語を履修するとともに、2年次に、英語圏、中国語圏への語学留学を通して、国際的コミュニケーション力の向上、異文化に柔軟に対応する力の修得をめざします。 (3) 初年次教育科目「フレッシュマン・セミナー」「フレッシュマン・プロジェクト」では、大学の学びへと誘い、アカデミックスキルの修得をめざします。 (4) 専門選択科目(「国際コミュニケーション科目群」「グローバル・キャリア科目群」「関西外大流グローバル人材育成プログラム」)では、グローバル社会についての理解を深めるとともに、異文化理解力、国際理解力、グローバル・キャリア基礎力をはじめ、主体性、行動力、論理的思考力、課題解決力、リサーチ力等の修得をめざします。 (5) 全学共通教育科目では、幅広い教養とインターンシップなどを通してキャリア形成の修得をめざします。 2. 教育方法について <ol style="list-style-type: none"> (1) 専門必修科目の英語科目においては、英語外部試験による客観的な指標によりクラス編成を行い、少人数によるクラス編成により各自のレベルに応じた科目履修をします。 (2) 2年次において、原則1学期間の英語圏への語学留学を行います。また、希望者には英語圏への語学留学に加え、中国語圏への語学留学を奨励します。 (3) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。 (4) 産業界等と連携したProject-based learning(プロジェクト型学習授業)の授業等を通して、キャリア意識の形成を図ります。 (5) クラスアドバイザー制度により、4年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。 (6) 本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識はもとより国際感覚、グローバルな視野などを身につけます。 3. 学修成果の評価について <p>学修成果の評価は、単位修得の確認などにより行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 修得科目、留学等の体験、およびクラスアドバイザーによる面談記録など4年間の学修記録としてのポートフォリオにより、学修成果の達成度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 (2) 長期留学にかかる英語力についてはTOEFLなどの英語外部試験の、また中国語力については中国語外部試験(HSK)の客観的な指標を設け学修成果を検証します。

3つのポリシー(英語国際学部英語国際学科)

入学者受入れの方針(AP)	<p>本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 求める人材像について 高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、<ol style="list-style-type: none">(1) 高等学校での学習・活動を通しての基礎的な知識・技能や目的意識・意欲のある人(2) 国際的なコミュニケーションを可能とする英語力、中国語力の向上、ならびにグローバル社会で活躍する上で必要な国際力(異文化理解力、国際理解力など)としてのグローバル・キャリア基礎力を身につけ、国際社会で活躍するキャリア形成をめざす強い意志と情熱を持つ人2. 評価方法について 上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。<ol style="list-style-type: none">(1) 一般選抜<ol style="list-style-type: none">ア. 一般入試 個別学力検査(外国語、国語)により評価します。また、本学の教育プログラムや海外留学で求められる語学力と思考力・判断力を備えた入学者を選抜する入試については、英語の資格・検定試験を活用するなど、多面的・総合的に評価します。<ol style="list-style-type: none">イ. 大学入学共通テスト利用入試 大学入学共通テストの得点により評価します。(2) 学校推薦型選抜<ol style="list-style-type: none">ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。イ. 指定校制推薦入試においては、書類選考および口頭試問(面接)を総合して評価します。(3) 特別型選抜<ol style="list-style-type: none">ア. 特技入試においては、書類選考、小論文、口頭試問(面接)を総合して評価します。イ. 社会人入試においては、書類選考、筆記試験(英語、小論文)、口頭試問(面接)を総合して評価します。ウ. 帰国生徒入試においては、筆記試験(英語、小論文)および口頭試問(面接)を総合して評価します。
---------------	--

2017年4月1日施行(2017年3月11日制定)
2018年4月1日施行(2018年2月26日改定)
2018年9月1日施行(2018年10月19日改定)
2020年4月1日施行(2020年3月7日改定)